

教科	数学	学年	第1学年	単元のまよりの評価規準		
単元名	単元の到達目標(小単元のねらい)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
0章 算数から数学へ	<ul style="list-style-type: none"> ○九九表の数の並びから、いろいろなまりを見だし、説明することができる。 ○自然数をいくつかの数の積で表すことよや素因数分解の意味を理解する。 ○素因数分解の一意性を理解し、自然数を素因数分解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然数、素数、素因数分解の意味を理解している。 ○素因数分解の一意性を理解し、自然数を素因数分解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見だし表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見だしようとしている。 		
1章 数の世界をひろげよう [正負の数]	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の必要性和意味を理解する。 ○反対の性質をもつ量や基準とのちがいを、正負の数を用いて表すことができる。 ○正負の数を数直線上に表すことができる。また、数直線を使って正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。 ○絶対値の意味を理解し、絶対値をもとにして正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。 ○正負の数の加法の意味を理解し、計算の仕方を考えることができる。また、正負の数の加法の計算ができる。 ○正負の数では、加法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の加法をくふうして計算することができる。 ○正負の数の減法の意味を理解し、加法に直して計算することができる。 ○正負の数の加法と減法の混じった式を、項の和とみて計算することができる。 ○正負の数の乗法の意味を理解し、計算の仕方を考えることができる。また、正負の数の乗法の計算ができる。 ○正負の数の除法の意味を理解し、計算することができる。 ○正負の数の四則の混じった計算ができる。 ○正負の数の分配法則を利用した計算ができる。 ○数の範囲と四則計算の可能性について調べ、その関係を考えることができる。 ○正負の数を利用して平均を求める方法を考えたり、身の回りの問題を解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の必要性和意味を具体的な場面と結び付けて理解している。 ○正負の数の大小関係や絶対値の意味を理解している。 ○正負の数の四則計算をすることができる。 ○具体的な場面で正負の数を用いて表したり処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数で学習した数の四則計算と関連づけて、正負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。 ○数の集合と四則計算の可能性について捉え直すことができる。 ○正負の数を活用して様々な事象における変化や状況を考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の必要性和意味を考えようとしている。 ○正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○正負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 		
2章 数学のこぼを身につけよう [文字と式]	<ul style="list-style-type: none"> ○文字を用いることの必要性和意味を理解し、具体的な数量を、文字を使った式で表すことができる。 ○文字式での積、商、累乗の表し方にしたがって、式を表すことができる。 ○単位の異なる数量を、単位をそろえた式に表すことができる。 ○πの意味を理解し、円周の長さや円の面積を、πを用いた式で表すことができる。 ○文字に数を代入することや、式の値の意味を理解し、式の値を求めることができる。 ○項と係数の意味を理解し、同類項をまとめることができる。 ○1次式の加法、減法、乗法の計算や、1次式と数の除法ができる。 ○文字式を利用して、規則的な事象やいろいろな整数を表したりできる。また、その方法を説明することができる。 ○等式、不等式の意味を理解し、数量の間の関係を等式や不等式で表したり、等式や不等式が表す数量の関係を読み取ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文字を用いることの必要性和意味を理解している。 ○文字を用いた式における積や商の表し方を知っている。 ○文字を用いた式の文字に数を代入して、その式の値を求めることができる。 ○簡単な1次式の計算をすることができる。 ○数量の関係や法則などを、文字を用いた式に表すことができることを理解している。 ○数量の関係や法則などを、文字を用いた式を用いて表したり、読み取ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な場面と関連づけて、1次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。 ○文字を用いた式を活用して、具体的な事象を考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文字を用いることの必要性和意味を考えようとしている。 ○文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 		
3章 未知の数の求め方を考えよう [方程式]	<ul style="list-style-type: none"> ○求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して解決することを通して、方程式の必要性を理解する。 ○方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入して方程式の解を求めたり、等式の性質を使って方程式を解いたりすることができる。 ○移項の意味を理解し、移項の考えを使って方程式を解くことができる。 ○かっこをふくむ方程式や、係数に小数、分数をふくむ方程式を解くことができる。また、1次方程式を解く手順を理解する。 ○具体的な問題を、方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。 ○個数と代金に関する問題、過不足に関する問題、速さに関する問題を、それぞれ方程式を利用して解決することができる。また、求めた解が問題に適しているかどうかを考え、説明することができる。 ○比例式の性質を理解し、その性質を利用して文字の値を求めたり、具体的な問題を解決したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○方程式の必要性和意味を理解している。 ○方程式の解や等式の性質、移項の意味を理解している。 ○等式の性質の意味を理解し、等式の性質を用いて方程式を解くことができる。 ○移項の考えを用いて方程式を解くことができる。 ○簡単な1次方程式、比例式を解くことができる。 ○事象の中の数量やその関係に着目し、1次方程式をつくることができる。 ○1次方程式を用いて具体的な場面の問題解決を行うときの、解の吟味の意味と必要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○等式の性質をもとにして、1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ○方程式において、移項できる理由を等式の性質をもとにして考察し表現することができる。 ○具体的な場面の問題において、1次方程式を活用し、問題を解決することができる。 ○1次方程式を用いて具体的な場面の問題について、解を吟味して解答としてよいことを判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ○正負の数や文字を使った式で学んだことを生かして、方程式を効率的に解く方法を検討している。 ○方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 		

単元名	単元の到達目標(小単元のわらい)	単元のまとまりの評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4章 数量の関係を調べて問題を解決しよう【比例と反比例】	<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。 ○関数の意味及び変域の意味と表し方を理解し、変域を不等号を使って表すことができる。 また、2つの数量の間に関数の関係があるかどうかを判断することができる。 ○比例の意味を理解し、比例の関係を式に表すことができる。また、反比例の意味を理解し、反比例の関係を式に表すことができる。 ○負の数でも比例、反比例の性質が成り立つことが理解できる。 ○yがxに比例、反比例するとき、1組のx、yの値から式を求めることができる。 ○比例、反比例のグラフは、その式をみたす点の集合であることを理解できる。 ○比例、反比例のグラフの特徴を理解し、グラフを書くことができる。 ○比例、反比例について、表、式、グラフを関連づけて理解することができる。 ○身のまわりの問題を、比例や反比例の考え方を活用して解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関数関係の意味を理解している。 ○比例、反比例について理解している。 ○比例、反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○比例、反比例として捉えられる2つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ○比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関数関係の意味や比例、反比例について考えようとしている。 ○比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
5章 平面図形の見方をひろげよう【平面図形】	<ul style="list-style-type: none"> ○平行移動、回転移動、対称移動の意味とその性質を理解する。 ○2つの合同な図形の関係を、移動の見方で捉え、説明することができる。 ○作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、簡単な作図ができる。 ○基本的な作図の方法を理解するために、交わる2つの円の性質を理解する。 ○垂線、線分の垂直二等分線、角の二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ○基本的な作図を利用して、円の接線やいろいろな条件をみたす図形を作図することができる。 ○基本的な作図を利用して、75°の角を作図する方法を考え、説明することができる。 ○おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例することを理解し、おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対称移動、平行移動、回転移動について理解している。 ○平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。 ○角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解している。 ○おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図形の移動に着目し、2つの合同な図形の関係について考察し表現することができる。 ○線対称な図形の性質をもとにして、基本的な作図の方法を考察し表現することができる。 ○図形の移動や基本的な作図を具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平面図形の性質や関係を捉えることの必要性と意味を考えようとしている。 ○平面図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○図形の移動や基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
6章 立体の見方をひろげよう【空間図形】	<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりにもものから立体を見だし、それらの立体をいろいろな見方で分類することができる。 ○多面体の意味を理解する。また角錐、円錐、正多面体の意味とそれらの特徴を理解する。 ○空間内の平面が1つに決まる条件を理解する。 ○空間内にある直線や平面の位置関係や、それらがつく角を理解する。 ○角柱や円柱、円錐、球などを、平面図形の移動によってできた立体とみることができる。 ○角柱や角錐、円柱や円錐の展開図とその特徴を理解する。 ○円錐の展開図で、側面になるおうぎ形の中心角を求め、展開図をかくことができる。 ○投影図の意味を理解し、立体の投影図から、その立体を読み取ったり、投影図に立体のどの部分の実際の長さがあらわれるかを考え、説明したりすることができる。 ○角柱や円柱、角錐や円錐の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 ○角柱や円柱、角錐や円錐の表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 ○球の体積や表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○空間における直線や平面の位置関係を理解している。 ○立体図形の展開図や投影図について理解している。 ○柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えることができる。 ○空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだすことができる。 ○立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○空間図形の性質や関係を捉えることの必要性や意味を考えようとしている。 ○空間図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
7章 データを活用して判断しよう【データの分析と活用】	<ul style="list-style-type: none"> ○データを度数分布表やヒストグラムに表し、分布の特徴を読み取り、説明することができる。 ○相対度数の必要性と意味を理解し、2つのデータを相対度数の折れ線に表して、分布を比較し、説明することができる。 ○代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読み取り、説明することができる。 ○目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。 ○不確定な事象の起こりやすさを、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解し、その結果をもとに不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒストグラムや相対度数などの必要性と意味を理解している。 ○累積度数、累積相対度数の必要性と意味を理解している。 ○代表値や範囲の必要性と意味を理解している。 ○データを表やグラフに整理することができる。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。 ○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒストグラムや相対度数の必要性や意味を考えようとしている。 ○ヒストグラムや相対度数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○ヒストグラムや相対度数を活用した問題解決の過程を振り返って検討したり、多面的に捉え考えようとしている。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性や意味を考えようとしている。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。